（様式例２）　　中学校の指導改善プラン（学校用）　　千代田区立九段中等教育学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題　○成果　▲課題			
	第１学年	第２学年	第３学年
国語	○児童・生徒の学力向上を図るための調査より、国語の授業内容に関しては 96%の生徒が理解している。授業には意欲的で、グループワークなどでも積極的に意見交換ができる。学力調査ではＳ層が例年よりも多く、全体の成績層も高く、高い読解力を有していることが分かる。 ▲児童・生徒の学力向上を図るための調査より各層での得点の差が最も開いたのは小説・随筆の読解であった。直観で感覚的に読んでいる生徒が多い。また、言語知識に関しても漢字や慣用句などに課題がある。	○児童・生徒の学力向上を図るための調査においての本校の強みは説明的文章を論理的に読む習慣を身に付けていることである。古典についても昨年度から学習を積み重ねて得点できている。 ▲文学的文章を論理的に読む習慣が足りていない。字面だけに惑わされず、文脈から判断させる指導が必要である。読むことに関しては「論理的」に読む習慣が必要である。古典は現代に生きる私たちと距離を近づけさせる。国語全般では日頃から「自分の意見」をもつ習慣をつけさせる必要がある。	○４月に実施した学力・学習状況の調査において、全国平均を上回っている項目がほとんどだった。特に説明的文章の読解が大きく上回っている。授業における、討論や発表などの主体的に論理を組み立てる経験が生きていると考えられる。 ▲自主学習時間の平均は減少している。より効果的な学習方法を指導することが必要であり、授業内や補習活動の際に重点的に指導する必要がある。古文の読解が他の分野に比べて低迷しており、特に得点Ｂ層以下で差が広がっているため、重点的な指導が必要である。
社会	○社会事象に対する意欲・関心の高い生徒が多い。グループワークやまとめ作業などは段取りよく進めることができる。 ▲基礎学力が二極化していることが定期考査等の学力考査に表れている。個に応じた対応に取り組むとともに言語活動の充実を通して「知識の活用」を見据えた指導の必要がある。	○社会的事象に関する知識・技能の定着度は高い。また班活動や自主的な調べ学習に意欲的な生徒が多い。 ▲特に下位層に対して、学習状況を確認して復習の機会を設けるなど、個に応じた対応に取り組む必要がある。上位層に対しては、更に能力を伸ばすため、社会的課題を取り組ませるなどが必要である。	○社会的事象に関する興味・関心が高い。社会的課題に関して、学習した知識を活用して、考察することができる。 ▲学習意欲に差がみられる。生徒が身近に感じる事象や社会的課題を提示して、生徒の学習意欲を喚起し、知識・理解を深めさせる指導が必要である。
数学	○定期考査では正負の数、文字式の計算を中心に出題し、正答率は 70%を超えた。中でも正答率が 90%を超えた生徒が全体の 20%で、多くの生徒が知識・技能と思考力・判断力・表現力を高いレベルで身に付けられている。 ▲一方で正答率が 50%を下回った生徒が全体の 12%で、Ａ層とＤ層の差を感じる。Ｄ層の生徒には基礎、基本の見直しを行い、今後の単元で生かせるような計算力を身に付けさせる。	○定期考査等によるＡ～Ｃ層においては，基本的な幾何分野の問題は 80%程度の正答率になっており定着度は良好である。 ▲全体でみると，応用問題や初見の問題に関しては 30%程度に落ちることもあり、立式できない生徒もいる。またＤ層においては、考査や授業内テストの結果が 40%程度の正答率になり，学力差がある。Ｄ層においては，基本的な計算を身に付けさせる工夫が急務である。	○いずれの分野においても東京都・全国に比べ知識・技能が定着している生徒が多く、全体としては本校の授業スタイルが生徒に浸透していると感じる。 ▲数学の学習に対し、好きではない＋どちらかといえば得意ではないで約 40%、授業がほとんど分からない＋どちらかといえば分からないと答えている生徒が約 32%程度いる。
理科	○豊富な実験に対して、目的をもって臨むことができる生徒が増えている。実験で理解した内容を、講義の形式で他者と協力しつつ定着させることができている。 ▲基礎学力の二極化が早い段階から生じてしまっている。スモールステップを意識した授業を展開し、改善を図る。	○豊富な実験から思考したり、明確な解答がない問いに対する答えをグループで考え深めたりする活動を通して、主体的に学びを進めるためのノウハウは身に付けつつある。 ▲課題をもとに身に付けた法則や公式をもとに応用的な「演習課題」に取り組むことがやや苦手である。ゆえに、演習法の指導をする時間も設ける必要があると考える。	○実験結果をもとに何が分かるのか、口頭だけでなく、論理的な文章でも他者に分かりやすく具体的に伝える力が定着してきた。 ▲既習内容の定着度によって理解度に差が生じている。学習に遅れが生じている生徒を机間指導によって支援したり、生徒同士で教え合ったりする活動を通して、集団としての学力の向上を図る。
英語	○スキットやスピーチ等の発表活動に意欲的な生徒が多く、間違いを恐れずに自身の言葉を用いて表現をしようとする姿勢が多く見られる。 ▲文法・語彙習得に課題がある。文法・本文導入の際に「気付き」を多く与え、理解に繋げる。また、定着が遅れている生徒には個別に指導する等の対策を行う。	○Speaking, Listening を中心に活動を行った結果、Listening の成果と文構造をつかむことにつながった。 ▲単語の並び替えはできるが、穴埋め問題となると回答率が大きく下がる。空欄の前後を見て、自身のレパートリーから適切なものを引き出すことが苦手であるため、演習問題にも取り組む機会が必要である。	○英語で書かれた文章・広告・予定表の概要を捉える読解活用のポイントが高い。 ▲単語の並び替えや基本的な文法が弱点である。また、単語力とまとまった英文を読む力に課題があるため、長文読解のポイントが低かった。

授業改善の方針	
国語	文学的文章の読解力向上のため、読書習慣を身に付ける働き掛けを行うと共に、感覚だけに頼らず論理的に文章を読む指導を充実させる。説明的文章を論理的に読解することはどの学年でもよくできているので、文学的文章にも生かせるよう指導していく。また、生徒達が古典に対して苦手意識をもたずに学習を進めていけるよう、現代の生活や言葉のきまりと関連付けた指導を実施する。言語知識は小テストを用いて定着を図り、全ての学習の礎となる言語能力を培っていくよう努める。
社会	主体的・対話的で深い学びを実現するため、多くの生徒が基礎学力の定着度と学習に対する意欲・関心が高いことを生かし、グループワークやまとめ作業などの充実を図り、自主的に探究する課題を提示する。また、より一層、意欲・関心を高めるために社会的な課題を探求する場面を設けるなどの授業方法も実践する。基礎学力の定着度と学習に対する意欲・関心が低い層には学習状況の確認や復習、文章表現の機会を設定し、個に応じた対応に取り組むことで改善を図る。
数学	学力差がでてきているため、Ｄ層生徒に基礎学力を身に付けさせる必要がある。反復演習を定期的に行うとともに個別指導や放課後スタディを行い、基礎学力の定着を図る。また、それぞれの層に合った授業を展開するとともに、応用力を身に付けさせるために文章の読解を丁寧に行い、見方・考え方を身に付けさせる。単元を横断した複合問題を扱った演習を増やし、読解力を向上させる。それぞれの層の課題に応じた個別指導を行い、後期課程の学習へつなげる。
理科	実体験から学ぶ授業を、３学年ともに展開しているため、実験には興味をもって取り組んでいる生徒が多く、思考する能力は養われている。しかし、単純な知識問題などは学力差が生じてしまっているため、講義型の授業での個別最適な指導を展開していくことが今後の課題である。また、知的好奇心を高めるために個人が興味をもっていることについて探究し、発表していくような授業も展開していく。
英語	スキット、スピーチ、ライティングといったアウトプット活動が充実させることで、間違うことを恐れずに英語を書いたり話したりする能力を育成する。また、各学年において文法・語法や単語の面で苦手を感じている生徒が多いので、単元末の確認テストや授業内における小テストを用いて基礎力の定着を図るとともに、グループワークでの教え合いを通すことで生徒内での学習リーダーを育成していく。
音楽	音楽文化の見方・考え方を育成し、多角的視点を養う。歌唱の授業では、日本歌曲、外国の楽曲等、様々な歌に触れるようにする。合唱においては、グループで対話しながら課題解決できる活動を工夫する。鑑賞では、日本伝統音楽や郷土音楽、世界の音楽、オペラ、ミュージカルなど、身の回りの社会にある音楽文化を幅広く味わえるようにする。その際、どのような音楽から何を感じたか根拠をもたせ表現することで、思考力・表現力を高める。器楽では、箏曲を弾くことで、日本音楽の音を肌で感じさせる。各学習でワークシートを用いることで、生徒一人一人の学習を見取るようにし、音楽の見方・考え方を身に付くように工夫する。また、鑑賞の授業や発表の場を通して、言語表現や演奏を表現する力を育成できるように努める。
美術	自身について考え、意欲的に作品制作に取り組むことができている。また、デザインを通して課題解決の方法を模索し作品制作に繋げることができている。鑑賞において作品に出合い、鑑賞を深め、自分の言葉で表現することができているが、根拠をもって自分の考えを生み出すこと、自信をもって自分の感じたことを人に伝えることが難しい生徒がいると感じている。出合いの場を増やし、作品を構成する要素を見付け感じたことを関連付け、作品について自分のなりの解釈ができるよう環境の充実を図るとともに個に応じた対応に取り組むことで改善を図る。
保体	男女共修に伴い、より多様な運動を取り入れることで、生徒が楽しみながら運動に取り組めるようにしている。 また、ＴＴによるきめ細かな指導で、運動が苦手な生徒にも分かる、できる指導を心掛けている。単元によってＩＣＴの活用をして、生徒の技能向上と知識理解の高まりにつなげている。 グループ学習を積極的に取り組ませ、グループ別学習カードを活用しながら、学習の積み重ねを継続することによって上達や成長に気付かせられるよう、より一層の工夫をしていく。
技家	実習を中心都市、体験的な授業を実施していく。調理実習や被服実習、グループワークなど自主的に学ぶことのできる場を工夫する。その際、教材の視聴などからも理解を深め、学んだことを家庭等で実践する意欲につなげ、技能の定着を図る。また、グループによる発表で、自分の考えを意欲的に伝えることができるようにする。